

SAPPORO

【札幌の路面電車編】

文化財散歩

さつぽろ

札幌の路面電車

[発行]
札幌市歴史文化のまちづくり推進協議会（事務局：札幌市市民文化局文化財課）
札幌市中央区北1条西2丁目札幌時計台ビル10階 電話 011-211-2312
令和7年2月



令和6年度文化庁
文化芸術振興費補助金
（地域文化財総合活用推進事業）

札幌の路面電車編ストーリー

札幌の路面電車の歴史をたどる

— 今も変わらず愛される市民の足

札幌の路面電車のルーツは1909（明治42）年に開業した馬車鉄道で、1918（大正7）年に電車へと転換、札幌の人口増加とともに発展してきました。最盛期には、新琴似や苗穂、豊平駅前、円山公園まで延伸し、札幌の交通網の基礎を築きました。地下鉄開業や道路事情の変化とともに路線は縮小しますが、2015（平成27）年に路線がループ化されて利便性が向上。新しい技術を取り入れた車両や設備が導入される一方、大正時代から続くササラ電車や沿線に見られる昔ながらの街並みなど、大正から続く歴史を身近に感じることができ、今も多くの市民や観光客に利用されています。

ばてつ 馬鉄から電車へ

札幌に初めて路面電車が走ったのは、1918（大正7）年8月のこと。その少し前、札幌の電車の生みの親となる助川貞二郎が「札幌石材馬車鉄道合資会社」を設立し、1909（明治42）年に馬車鉄道を開業したことがルーツとなっています。当初は石切山で採掘した軟石材の運搬業務が中心でしたが、徐々に旅客輸送を展開し、社名も「札幌市街馬車軌道株式会社」と改めて路線網を広げていきました。

当時の馬車鉄道は「馬鉄」と呼ばれて親しまれた一方、馬のふん尿処理に関する不満や輸送力の弱さが指摘されていました。また、1896（明治29）年に京都で日本初の電車が開業し、その後、名古屋、

東京、大阪、函館にも電車が走り、札幌でも電車への関心が寄せられていました。

1918（大正7）年に「開道50年記念北海道大博覧会」を開催することが決まり、これまでにない人出が予想されると、馬鉄を廃止して電車を運行する機運が一気に高まります。助川は「札幌電気軌道株式会社」



1921（大正10）年、市街地を走る電車

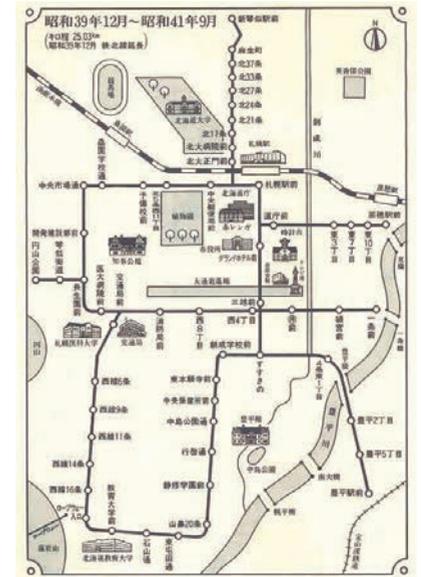
と社名を改め、電車への切り替えに着手。約2年の準備期間を経て、博覧会会期中の1918（大正7）年8月12日に札幌初の電車を走らせました。この時の路線は、南1条線、停公線、南4条線の3路線でした。

民営から市営へ

路線は札幌の人口増加に合わせて延伸を続け、苗穂線、円山線、豊平線、山鼻線、北5条線を開業し、札幌の交通網の基礎を築きます。その後、公共性の高い電車事業を札幌市が担うこととなり、1927（昭和2）年12月1日に市が事業を引き継ぎ、市営交通事業がスタートしました。路線延伸はなおも続き、鉄北線、桑園線、山鼻西線が開業します。利用者は年々増加し、ピーク時の1964（昭和39）年には1日の輸送人員は約28万人、当時の札幌市の人口約75万人の実に4割近くに相当する人が電車を利用していました。



1969（昭和44）年、札幌駅前の電車乗降客



最盛期（1964（昭和39）年頃）の路線図
出典：『さっぽろ文庫22 市電物語』札幌市教育委員会編



現在（2024（令和6）年時点）の路線図

名古屋鉄道とのつながり

明治30年代に走り始めた名古屋の電車と、札幌の電車には深いつながりがあります。札幌の開業計画では当初イギリスから車両を導入する予定でしたが、1918（大正7）年は第一次世界大戦の最中で海上輸送に危険があり、輸入が中止になりました。そこで急ぎよ名古屋電気鉄道株式会社（現・名古屋鉄道株式会社）から中古車両24両を譲り受け、無事開業にこぎつけました。

時代は進んで1976（昭和51）年、札幌で余剰となった接続車の売却先を探していると、今度は名古屋鉄道株式会社から申し込みがあり、譲渡が決定します。ゆかりのある名鉄への譲渡とあって、関係職員が感慨を込めて見送るなか、A830型3



名古屋電気鉄道から譲り受けた「路面電車22号車」。現在は「札幌市交通資料館」に保存されている

編成6両の搬出が行われました。車両は名鉄美濃町線が2005（平成17）年に廃止されるまで活躍し、現在はその先頭部分が旧美濃駅で保存されています。

雪と闘う「ササラ電車」

北国の路面電車にとって大きな課題となるのが除雪です。この課題に取り組んだのが札幌電気軌道株式会社の技師長・助川貞利^{すけがわ さだとし}でした。3年の苦労の末、1925（大正14）年に「ササラ電車」（正式名称ロータリーブルーム式電動除雪車）を考案しました。車両前後の回転部分にササラ（細かく割って束ねた竹のブラシ）を付けた原型は今も活用されています。ちなみに現在（2024（令和6）年12月31日時点）までササラ電車の除雪が追いつかず、全線運休となったのは2016（平成28）年12月10日のたった1日だけです。



稼働するササラ電車

まちなに残る電車の歴史

電車の路線の総延長は約25kmにもなりましたが、自家用車の普及や地下鉄の開業にともなって主役の座を譲り、1974（昭和49）年には約8.5kmまで縮小されました。それでも今もあちこちで電車が歩んだ歴史を感じることができます。

例えば、「中央区役所前」停留場の近くにある鉄塔型の架線柱は、かつて南2条西11丁目に「中央車庫」があったため、車庫へ向かう分岐軌道があった名残です。中央車庫は馬車鉄道時代から使われていたもので、1968（昭和43）年に藻岩山麓に電車事業所・車両センターが完成すると役目を終えて廃止され、中央区役所やホテル用地となりました。

また、現在の豊平区豊平4条9丁目付近には、かつて定山溪鉄道の豊平駅が

あって電車の豊平線が接続していました。道路が不規則な形になっているのは駅前ロータリーがあった名残です。ほかにも地形に合わせて大きく曲がった軌道の跡や電車設備の跡が残る場所があり、古地図を片手に歴史をたどってみると、面白い発見があるかもしれません。



「中央区役所前」停留場近くにある鉄塔型の架線柱。中央に見える細いビルの場所に分岐軌道があった

知ってる？



不思議に曲がる線路の謎

路面電車の線路は、「山鼻9条」から中心部に向かって2回カーブしています。実は、中心部と山鼻地区では道路の向きが少し違っているのです。明治時代、中心部の区画を作った岩村通俊は、創成川を基準に道路の向きを決めました。一方、山鼻屯田兵村を作った黒田清隆は、磁石の北を基準に決めました。向きの違いは角度にするとわずか4度ですが、岩村と黒田のまちづくりの基準の違いを路面電車で感じることができます。



出典：国土地理院ウェブサイト
(https://www.gsi.go.jp/kankyochiri/gm_jpn.html)
地理院タイルを加工して作成

電車から、まちを眺める

路線縮小が続いた電車ですが、2002（平成14）年から存続問題について検討を重ね、2005（平成17）年2月に札幌市が存続を決定しました。2013（平成25）年5月に新型低床車両、愛称「ポラリス」を導入（2025（令和7）年1月にはポラリスIIが運行開始）、2015（平成27）年12月には、電車が歩道側を走行するサイドリザーション方式により「西4丁目」と「すすきの」を結ぶ都心線を開業し、路線をループ化しました。ループ化に併せて、「狸小路」と「西4丁目」停留場にはバリアフリー対応の新しいデザインを取り入れました。

一方、都心部を少し離れた沿線には商店街や住宅など昔ながらの街並みが残り、ゆっくり走る電車から景色を眺めていると、札幌の今と昔が交錯しながら流れていくようです。例えば、「行啓通」の近くにある国登録有形文化財・黒田家住宅は、市電山鼻線開通を契機に市街化された地区内

に建設され、地区の歴史を伝え電車を見守り続けてきた貴重な建物の一つです。また、「東屯田通」付近は、札幌初の電車が走った1918（大正7）年ころから住宅が増え、商店街が形成された地域です。

市内を一望できる藻岩山へ向かう観光客や、沿線に暮らす住民、通勤通学の市民、公園や図書館、買い物や食事に来る人々など、さまざまな乗客を乗せて毎日休まず走り続ける電車。1周乗車しても約60分の短い時間ですが、昔から現在へと続くまちの歴史や暮らしを垣間見ることができます。



低床車両「ポラリス」



黒田家住宅



冬期間限定の雪ミク電車

まちを祝う 復刻「花電車」!

24年ぶりの花電車運行

路面電車の歴史には、お祝いごとやイベントを記念して造花や電球で装飾した「花電車」の存在が欠かせません。大正から平成にかけて、趣向を凝らした華やかな車両が札幌の人々を楽しませました。近年では札幌市制100周年を記念して、2022（令和4）年7月から8月に24年ぶりの花電車が復刻運行しました。



2022（令和4）年、市制100周年記念の花電車（「札幌市制100周年記念花電車SNSを利用した投稿キャンペーン」より）



1969（昭和44）年、札幌オリンピック記念の花電車



1918（大正7）年、電車開通記念の花電車

知ってる？



路面電車のおすすめビュースポット

電車の路線上にかかる歩道橋の上は絶好の撮影スポットで、柏中学校前の歩道橋（南21条西6丁目）からは、電車と藻岩山を一緒に撮影するのに最適です。また、伏見小学校前の歩道橋（南18条西15丁目）からは、まっすぐ伸びる線路と電車の姿を遠くまで見渡すことができます。ほかにもたくさんビュースポットがありますので、沿線を散歩しながら探してみませんか。



柏中学校前の歩道橋



伏見小学校前の歩道橋

行ってみよう!

子ども大人も体験にでかけよう! 札幌市交通資料館

札幌市交通資料館は、市営交通の歴史を発信する拠点として1975(昭和50)年に開館しました。地下鉄高架部の改修工事に伴って一時休館していましたが、2024(令和6)年5月に展示内容を大幅にリニューアルし、新しい施設としてオープンしました。以前より展示室が格段に広くなり、いろいろな体験ができる展示物が充実。「見る」だけでなく、自分で「見つけ」、様々な角度から「観察」できる仕掛けがたくさんあり、路面電車をはじめ、バス、地下鉄といった札幌市の交通の歴史と現在を、子どもから大人まで楽しみながら学ぶことができます。また、館内はほとんど段差がなく、入口には車椅子用スロープを設置し、授乳室も完備。どなたでも気軽に立ち寄ることができます。



札幌市南区真駒内東町1丁目1-20 無料
9:30~16:30(開館期間)4月15日~10月31日
なし 地下鉄南北線「自衛隊前駅」から徒歩5分

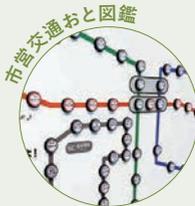


木製22号車

札幌の街を最初に走った貴重な木製車両の中に座って、当時の乗客気分を味わいましょう。車窓にはプロジェクションマッピングが投影され、明治時代から現在までの交通の歴史をたどることができます。



他にもこんな展示が!



路面電車と地下鉄のアナウンスなどが流れます。



札幌のりもの歴史

昔の路線図、車両の部品、機器など貴重な交通資料が、テーブル型の引き出しに収蔵されています。壁面には馬車鉄道、路面電車、バス、地下鉄の歩みがわかる年表があります。



札幌のりものライブ러리

懐かしい札幌の街並み写真とともに、かつての路面電車駐車場の看板、車両の表示、除雪車に取り付けるササラなど、珍しい交通資料がズラリと並んでいます。



市営交通おしごと図鑑
安全運行を支える、職員等の仕事内容と、実際の道具を展示。



札幌地下鉄ライド

地下鉄車両で使用されていた運転台を操作して、ジオラマ内の車両模型を走行させることができます。ホームびつたりと停車させるには、かなりの腕前が必要かもしれません。



屋外展示場

市内を走行していた市電車両10両、バス車両4台、地下鉄車両5両の貴重な車両が地下鉄高架下に展示され、間近で見学することができます。大人の乗り物ファンにも大好評です。



スタンプテレーン
館内のスタンプを押して図柄を完成させよう!

藻南公園

公園内の札幌軟石ひろばでは、明治時代、馬車鉄道で軟石を運搬した台車を表現したオブジェや、札幌軟石の切り出し技術を解説したパネルなどが設置されており、散歩をしながら札幌軟石の歴史を学ぶことができます。



札幌市南区真駒内柏丘12丁目 無料
あり(11月下旬~翌年4月中旬は閉鎖)
地下鉄南北線「真駒内駅」からじょうてつバス南沢線または藻岩線乗車、「藻南公園前」下車徒歩1分/JR線「札幌駅前」からじょうてつバス定山溪線または藻岩線乗車、「藻南公園前」下車徒歩1分



幌北車庫跡

1971(昭和46)年まで、西5丁目通りをまちの中心部から新琴似駅前に向かう、市電「鉄北線」が運行されていました。かつてこの路線を走っていた引退電車213号と248号を現在でも市内で見ることができます。213号は北区屯田に(2025(令和7)年1月時点)、248号は市電幌北車庫の跡地、現・札幌サンプラザの敷地に保存されています。248号が設置されている広場では、地域のイベントが行われるなど電車を囲んだ地域の賑わいが生まれています。電車の手入れは地域住民が行いイベント時には車内の公開もしています。

札幌市北区北24条西5丁目 無料 あり
地下鉄南北線「北24条駅」から徒歩3分



市電終点豊平駅跡

市電の最盛期、路面電車は豊平川を渡って国道36号線を守り、定山溪鉄道の豊平駅前まで延伸されていました。かつて市電「豊平駅」が設置されていた付近に当時を物語る銘板が建てられています。銘板の地図で、今の道路の形の謎がわかるかもしれません。

札幌市豊平区豊平4条8丁目 無料 あり
地下鉄東豊線学園前駅から徒歩10分

沿線
お出かけ
スポット



藻岩山ロープウェイ

市内中心部を循環する市電は市民はもちろん観光客の足としても頼りになります。多くの観光客が降りるのが「ロープウェイ入口」。ここから雄大な石狩平野を一望する山の頂上へ向かうことができます。ロープウェイは天候により休止していることがあるので最新情報を確認してご乗車ください。

札幌市中央区伏見5丁目3-7 有料 あり
市電「ロープウェイ入口」降車後、無料シャトルバス乗車

ストーリーに関連する文化財をめぐってみよう!



ストーリーに関連する文化財

(令和7年2月時点)

文化財の名称	指定等の状況	所在地
市電213号	指定なし	北区屯田9条12丁目6-3
幌北車庫跡	指定なし	北区北24条西5丁目
市電248号	指定なし	北区北24条西5丁目
鉄塔型架線柱	指定なし	中央区南1条西11丁目
KAKUイマジネーション ※旧助川貞二郎所有事務所	指定なし	中央区南3条西7丁目4-1
行啓通	指定なし	中央区南14条西6丁目～西20丁目付近
黒田家住宅(母屋・蔵・門・塀)	国登録有形文化財	中央区南13条西7丁目1-1
豊平駅跡	指定なし	豊平区豊平4条8丁目
ササラ電車	さっぽろ・ふるさと文化百選	南区真駒内東町1丁目1-20 札幌市交通資料館
路面電車22号車	さっぽろ・ふるさと文化百選	南区真駒内東町1丁目1-20 札幌市交通資料館
札幌市電関係資料	指定なし	南区真駒内東町1丁目1-20 札幌市交通資料館
花電車	指定なし	

※上記一覧には、公開されていないものもあります。